

Google Workspace で実現する ChatOps について

片岡 亮介

株式会社ジェーシービー デジタルソリューション開発部 部長(担当)

Speaker



Ryosuke Kataoka

(ryosuke.kataoka@jcblab.jp)

Product Owner (JDEP)

- ビジネスアジリティを高める開発部隊mgr.
- Cloud Native な Platform の PO
- Google Cloud は 20 年 4 月から本格利用中
- 好きな Google Cloud サービス : Cloud Spanner

What's JCB



FBrand Holder

世界中でJCBカードが使えるインフラを整え、 国内外の大手金融機関と提携しJCBブランドカード会員を 世界中に拡げています。ブランドホルダーの機能は 国際ブランドを保有する企業のみが持っており、日本では 唯一JCBだけが持つ機能です。

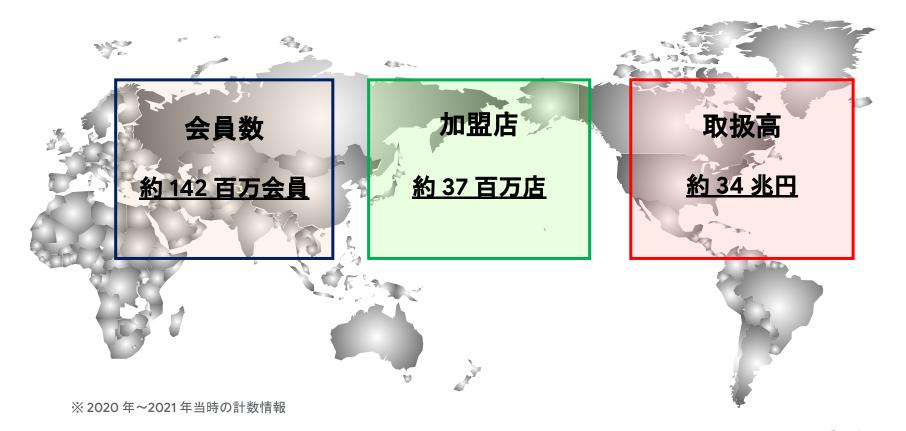
[Issuer]

カード会員の募集・発行、新規カードの立ち上げ、カード付帯サービスをカード会員に提供しています。

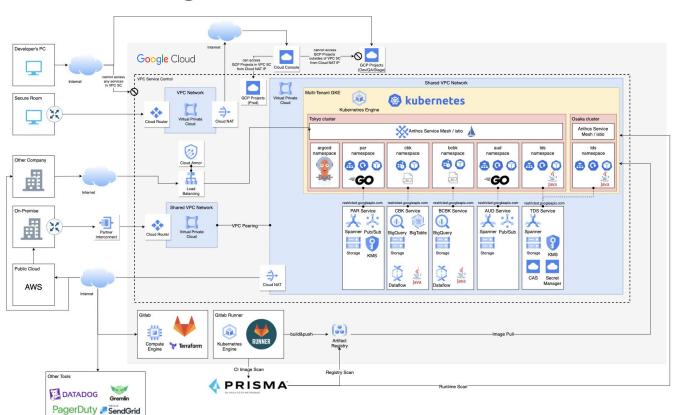
[Acquirer]

国内すべての加盟店との契約を担う 「シングルアクワイアリング」の強みを活かし、国内最大級 の加盟店ネットワーク網を構築・維持しています。

What's JCB



With Google



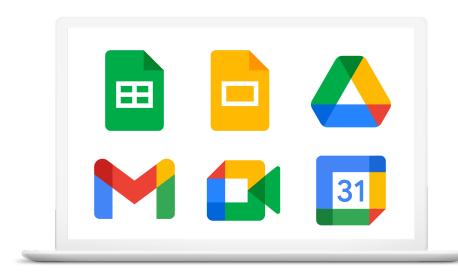
JCB Digital Enablement Platform

Google Cloud を用い GKE(Kubernetes) と Anthos Service Mesh(Istio)をコアプロダクトして構築。 Cloud Spanner の特性を活かし東京 大阪両現運用を実現。

また、アジリティあるシステム開発を可能とするため、APL 開発は DDD 設計やマイクロサービスアーキテクチャを導入。

なお、Datadog や Gitlab など様々な外部サービスや OSS を積極活用。 低コストで柔軟な Platform とし、 JCBのビジネスアジリティを高るコアプロダクトとして確立。

With Google



Google Workspace



ChatOps

Why ChatOps?

ChatOps

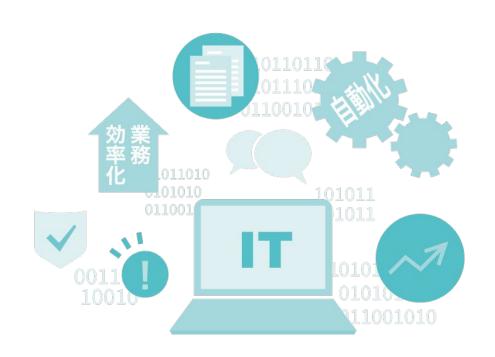
chat x operations を合わせた造語。利用者 フレンドリーな Chat ベースの UI を活用し、 様々な運用業務の自動化を図り、 各種運用業務の高度化が実現できる。



Why ChatOps?

メリット

- □ 運用業務の効率化
- □ アジリティ向上
- □ ミストラブル抑止
- □ コンプライアンス強化
- □ システム品質の向上



Google Workspace

Google Cloud

Operators



Developers

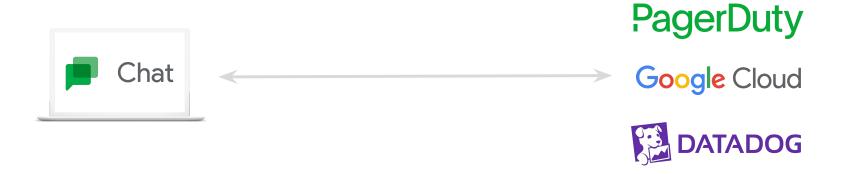


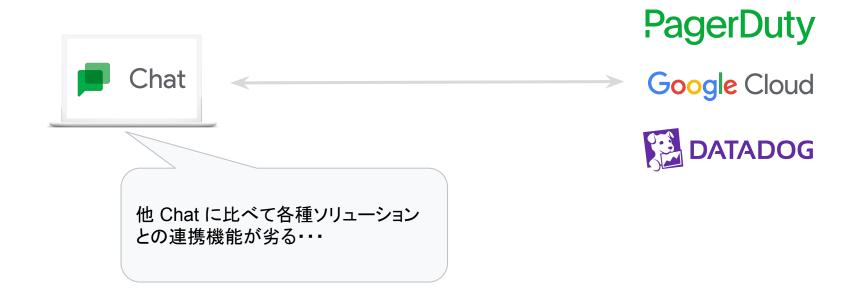


PagerDuty













Google 社が提供するスクリプトプラットフォーム。JavaScript ベースでの開発言語であり、エンジニアが容易に開発することが可能。また、各種 Google プロダクトとの API ライブラリも提供されており、Google Workspace 全体を活用した ChatOps を実現できる。



Google Workspace の各種機能



Google フォーム

情報登録(INPUT)



スプレッドシート

- 加工用中間データ
- 操作履歴管理



Google ドライブ

- 各種データ置き場
- データ保護(DLP)



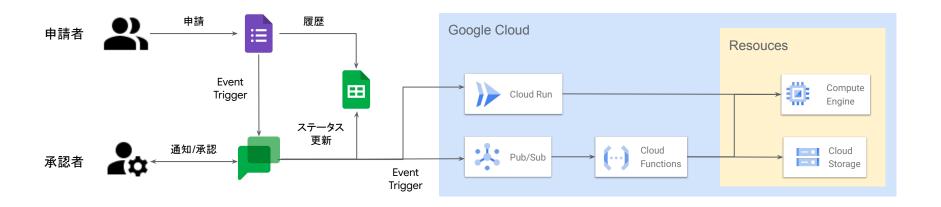
Gmail

- 情報共有
- 備忘メモ

ChatOps flows



ChatOps flows





Use Case

ChatOps Use Case

JCB では 2020 年から段階的に Google Chat を UI と した ChatOps の運用を導入。今では 50 を超える ChatOps が実装され、日々のシステム開発の活動で利 用中。

なお、ChatOps はあくまでも手段の一つであり、根本目的は「運用業務の効率化」や「システム品質」などの向上や課題解決を行うことこと。

本日は JCB が実現している ChatOps を具体例を紹介させて頂く。

内容
システム ID の払出し
IAM 権限の付与
システムリリース(リソース配布)
システム構成違反の検知
インシデント発生時の連絡
Security アラート連絡
外部へのデータ持ち出し

etc...

ChatOps Use Case

JCBでは 2020 年から段階的に Google Chat を UI とした ChatOps の運用を導入。今では 50 を超える ChatOps が実装され、日々のシステム開発の活動で利用中。

なお、ChatOps はあくまでも手段の一つであり、根本目的は「運用業務の効率化」や「システム品質」などの向上や課題解決を行うことこと。

本日は JCB が実現している ChatOps を具体例を紹介させて頂く。

内容
システム ID の払出し
IAM 権限の付与
システムリリース(リソース配布)
システム構成違反の検知
インシデント発生時の連絡
Security アラート連絡
外部へのデータ持ち出し

etc...

IAM 権限の付与

IAM は複雑なため、権限設定付与のミスに伴う インシデント発生リスクが高い。また、ユーザに 高権限の IAM ロールを付与しておくことでの情報漏洩の リスクも残存。

そのため、JCBではユーザ ID に時間指定で IAM ロールを付与する仕組みを ChatOps で行っている。

目的

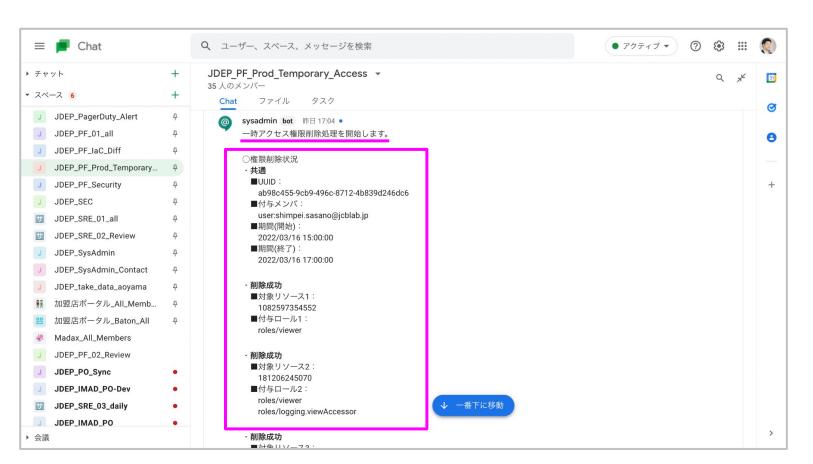
- IAM 付与ミスに伴う作業ミスの抑止
- IAM 権限管理の適切化
 - →高権限付与の適正な管理
- ID·PW 管理の効率化(業務負荷軽減)

Step1 権限申請

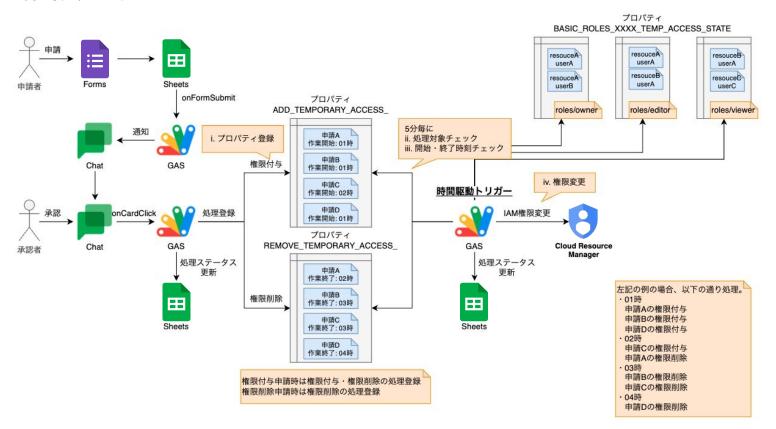
動画あり:視聴ページをご覧ください

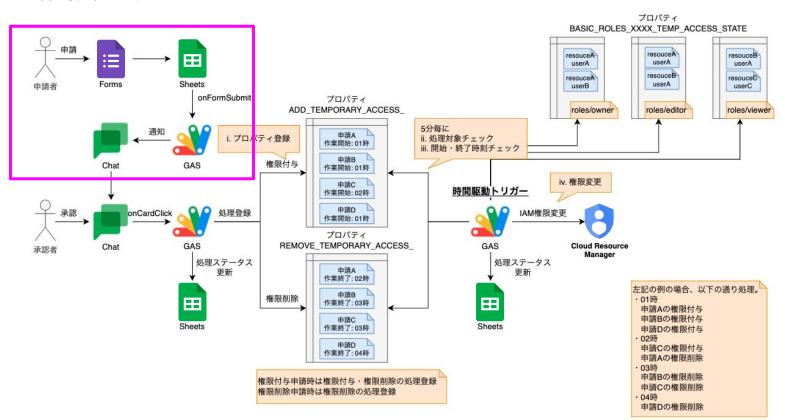
Step2 権限承認

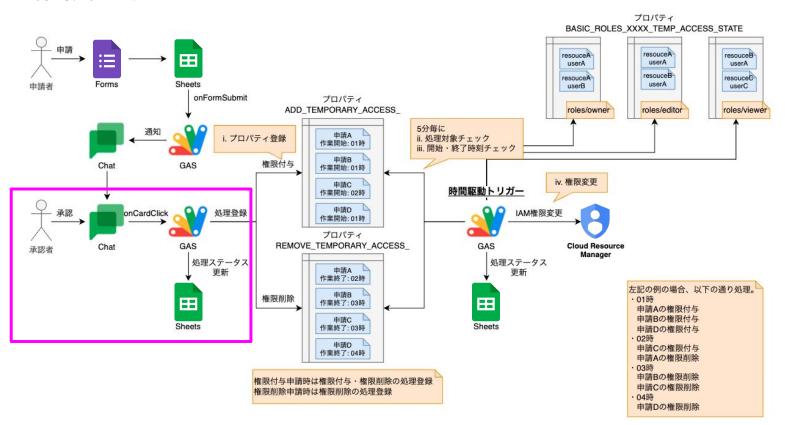
動画あり:視聴ページをご覧ください

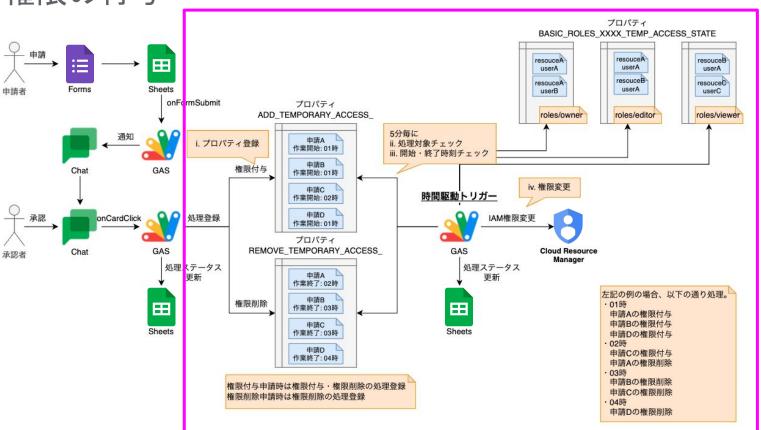


Step3 権限削除









ポイント

事前に必要となる作業内容と IAM ロールをマッピングしておくことが重要。

上記によりIAMロールの付与不正に伴うミストラブルが抑止できる。

role名	障害解析	DBリストア	閲覧
roles/viewer	• •	• •	• •
roles/spanner.databaseUser	• •	~	*
roles/pubsub.editor	• •	~	~
roles/cloudkms.cryptoKeyEncrypterDecrypter	~	~	~
roles/cloudkms.publicKeyViewer	~	~	~
roles/cloudfunctions.developer	~	~	~
roles/iam.serviceAccountUser	~	~	•
roles/storage.objectAdmin	~	~	•
roles/logging.configWriter	~	-	~
roles/cloudkms.admin		~	
roles/spanner.backupAdmin	•	• •	~
roles/spanner.restoreAdmin	_	• 🔻	-
roles/spanner.databaseAdmin	~	• •	~
roles/serviceusage.serviceUsageConsumer		• -	•
roles/storage.admin	~	~	•
roles/cloudscheduler.admin	~	~	•
roles/pubsub.admin	~	~	~
roles/vpcaccess.user	~	~	~
roles/logging.viewAccessor	• •	• •	• •

IAM 登録のチェック

IAM 構成のチェック

サービスアカウントに付与している IAM 情報と、IAM 設計情報を Daily で差分比較チェックを実施。最新状態が正しい状態を担保。





その他 ChatOps



インシデントが発生しました

サービス名: jdep-prod-platform-critical

システムによるインシデントの変更: Datadog

インシデント情報

Incident Id

036TY8S710WKYW

Incident Title

PF:GKE:tko:Prod:tds-mngCPU使用率 閾值超過[prod-

tko-gke-shared-2104] on

display_container_name:tds-mng_tds-mng-v1-

5bdc988558-ndf5b

Incident Status triggered

DataDog情報

Incident Key

62b018c9b4364ff0bcf86931aeb534e3

Servirity

error

インシデント情報通知



ファイル持ち出し通知

日時

2022/03/17 17:52:23

チーム名

commonpf

ファイル名

20220316.log

オーナー

shimpei.sasano@jcblab.jp

ファイル監査結果

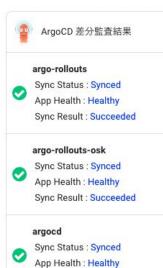
機微情報なし

承認後にファイル持ち出し先バケットにファイルが

転送されます

承認する 拒否する

外部へのFile持ち出し申請



argocd-appproject

Sync Result: Succeeded

Sync Status: Synced App Health: Healthy Sync Result : Succeeded

リリース結果の確認

まとめ

- ChatOps は目的(実現したいこと)を考えて導入することが需要
- ChatOps の効果は、単なる効率化には止まらない
- ChatOps の実現に Google Workspace を駆使することも選択肢
- Google Workspace で ChatOps を実現するための Keytool は GAS

Thank you.

